

令和五年度 横須賀市立

第二学年 前期期末テ

令和五年九月六日（水）第一

国語

【教科書】

p.44～49「人間は他の星に
～」 p.52～55「手紙・メー
ル」

p.60～68「短歌の世界・短歌
十首」 追浜

p.76～83「壁に残された伝
言」 田浦・追浜

【漢字】

p.16～27

【その他】

・図書館オリエンテーション
・夏休みの文法、敬語プリン

1 はじめのチャイムが鳴ったら冊子を開き、ページを確認して問題を解き始めてください。

2 問題文から答え方をよく確認し、特に語尾に注意して解答しましょう。

3 解答は、解答欄に丁寧に記入してください。

4 指示がなくても漢字で答えるようにしましょう。

5 解答用紙にマス目がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れましょう。

6 終わりのチャイムが鳴ったら、すぐに鉛筆を置いてください。

戸↓ニ
追↓三・四・五
田↓五

二年	組	番	氏名

(一) 次の問いに答えなさい。(25)

問一 次の傍線部の仮名を漢字に直しなさい。また、送り仮名が必要なものは書きなさい。【知各1】

- ① ゼツキウ系マシン。 ② チョウボをつける。 ③ ワイロはいけません。
④ 友達をはげます。 ⑤ やる気がなえる言葉。

問二 次の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。【知各1】

- ① 被害を被る。 ② 臍かな空気。 ③ 部屋を隔てる。 ④ 雑巾を絞る。 ⑤ 代替案を出す。

問三 次の文に「／」を入れて文節に区切りなさい。「／」は解答用紙に書き入れなさい。【知各1】

- ① 祖父は昨年八十歳になりました。
② よくわかるように話してください。

問四 次の文に「／」を入れて単語に区切りなさい。「／」は解答用紙に書き入れなさい。【知各1】

- ① 宿題が終わったからおふろに入る。
② 九州へ飛行機で旅行に行ってくる。

問五 次の文の主語と述語の文節をそれぞれ答えなさい。【知各1(全解)】

- ① 家の窓から青い海が見える。
② 私にとってこれほどの幸せはない。

問六 次の文中の単語のうち、形式名詞をそれぞれ一つずつ答えなさい。【知各1】

- ① 世の中はそんなに甘いものではない。
② 人のことをあまり気にするな。

問七 次の文中で、傍線部が適切な敬語になっているものは解答欄に○を、誤っているものは解答欄に正しい

敬語を書きなさい。【知各1】

- ① 私はお客様を駅まで見送る。

- ② 私はお客様に「こんにちは」とおつしやる。

- ③ 学芸会のはじめに、校長先生がお話しになられる。

問八 次の書籍の内容①～③について、適切なNDC分類(日本十進分類法)を次のア～コから選び、記号で答えなさい。【知各1】

①産業 ②哲学 ③文学

ア	0 類	イ	1 類	ウ	2 類	エ	3 類	オ	4 類
カ	5 類	キ	6 類	ク	7 類	ケ	8 類	コ	9 類

問九 次のア～エは手紙に用いる時候の挨拶であるが、夏に用いるのに適切でないものを二つ選び、記号で答えなさい。【知各1】

- ア 向暑の候
イ 蝉の声が夏の到来を気づかせる季節になりましたが
ウ 菊花煮る時節
エ 梅雨明けが待たれる今日このごろですが
オ 若葉萌えいづる頃

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 17

は段落番号。(28)

1 「命の星」「緑の惑星」——このように呼ばれる地球には、私たち生物の命を育む環境がみごとに整っています。長い時間をかけて多くの天文学者たちが生命の存在を求めて宇宙を探索していますが、いまだ地球以外の天体で生命を発見することができていません。私たちのエネルギーのもととなる太陽との距離や地球自身の大きさや質量などいろいろな条件が奇跡のように重なって、この地球上に生命が生まれ、育ってきたのです。そうしたことから地球を「奇跡の星」と呼ぶ人もいます。

2 しかし、この地球の恵まれた環境は、永遠には続かないのではないかとわれています。環境汚染、地球規模の戦争、人口の急激な増大による食糧危機、天然資源の枯渇、火山の噴火や隕石の落下による気候変動などで、将来、人類は地球に住むことができなくなってしまうかもしれないのです。

3 もしもそうなったとしたら、私たち人間は、地球以外の星に住むことができるのでしょうか。その可能性を探ってみることにします。

4 人間が他の星に移り住むためには、「地球からの距離」と「生きていける環境」が重要な条件になります。

5 最初に、月はどうでしょうか。月は地球から最も近い天体であり、人間が既に到達したことがある唯一の星です。

6 しかし、残念ながら月には水も大気もほとんどありません。水は、人間の体をつくるものであり、水がない環境では人間は生きてはいけません。また、大気というのは、熱を逃さない毛布のような役割を果たします。大気がないと、その星の温度は急激に下がったり、上がったりしてしまうため、安定しません。大気がない星というのは、人間が生きていくには厳しい環境だといえます。そのうえ、月は重力も地球の六分の一程度しかありません。したがって、月は人間が生きていける環境の条件を満たしていません。

7 次に、地球からの距離が近い金星はどうでしょうか。金星は大きさや質量が地球に近いので、重力も地球とほぼ同じです。「地球の姉妹惑星」と呼ばれるほどです。もし人間が金星に住んでも、重力の変化による体の負担はほとんどないと考えられます。

8 また、金星には、月にはなかった大気もあります。ただし、その九六パーセントが二酸化炭素でできています。そのため、二酸化炭素による温室効果によって、金星の表面温度は五〇〇度近くもあり、たとえ水があったとしても、全て蒸発してしまいます。人間が生きていくために欠かせない水を確保することは難しいようです。

9 地球からの距離という点では、水星も移り住める可能性のある星です。しかし、水星は太陽に最も近く、大気もほとんどないので、表面温度が昼間は四〇〇度、夜にはマイナス一七〇度にもなります。この厳しい環境では、やはり水を確保することはできません。

10 それでは、地球のすぐ外側を回っている火星はどうでしょうか。

11 まず、火星には大気があります。大気はとても薄いのですが、人体にとって有害な宇宙線などを多少なりとも和らげることがができます。次に、重力はどうでしょうか。火星の重力は地球の約四割といわれます。この火星の重力が人間の健康にどれほど影響を及ぼすのかは、実はまだよくわかっていません。ただし、月の重力と比べれば、火星では比較的安定して暮らすことができそうです。それから、火星の一日の長さが地球の一日に近いことは利点です。このことによって、もし人間が移り住んでも、体内時計を大きく変えることなく生活できます。

12 では、火星には人間が生きていくために必要な水はあるのでしょうか。

13 アメリカは長年、火星探査を行ってきました。その結果、火星には表面に川のような地形があることがわかってきました。

14 探査機が火星を撮影した写真を詳しく見ると、川の流れによって深くえぐれたと思われる部分や、その堆積物がありそうなのがわかりました。また、高原地帯には「チャネル」と呼ばれる曲がりくねった地形も

一九九七年には、探査機マーズ・パスファインダーが火星着陸に成功し、形の細長い岩が同じ方向を向いているのを発見しました。これは、以前に洪水が起こったと考えられる決定的な証拠となり、火星にもかつて海や湖があったことが証明されました。そして、二〇〇九年、探査機フェニックスが、かつて火星に存在した水の一部が、地下に永久凍土として埋まっていることを確認しました。火星は太陽から遠いため、表面に届く太陽のエネルギーの量は、地球に届く量の半分程度しかありません。そのため、火星は地球と比べて非常に寒く、平均表面温度はマイナス四三度、最低温度はマイナス一四〇度にもなります。それで、火星の水は氷として地下に眠っているわけです。

16

この氷を溶かして水にすることができたら、私たちが火星に移り住む可能性は広がります。地下の水を溶かして海や川をつくるため、火星の大気を増やし、地表温度を上げるための研究も、現在進められているのです。ただし、うまくいっても、地球と同じような温暖な空気と水をもった惑星になるには、少なくとも数百年はかかるといわれています。

17

こうして考えてみると、生命が育まれる条件がみごとにそろった地球は、かけがえのない星だということがわかります。私たちはまず、「奇跡の星」地球を大切にしていくなにより重要です。そして、地球の外に目を向けると、いずれは火星が第二の「奇跡の星」になる可能性を秘めているのです。

問一 傍線部①とあるが、なぜ地球は「奇跡の星」と呼ばれるのか。その理由を述べた一文を探し、初めの七字を抜き出さない。【思2】

問二 傍線部②とあるが、その原因として本文では次のア～オのことがあげられている。このア～オを、

「人間の生活や行動によるもの…Ⅰ」と「人間の生活や行動によらないもの…Ⅱ」にすべて分類し、解答欄に記号で答えなさい。【思2（全解）】

ア 環境汚染

イ 地球規模の戦争

ウ 人口の急激な増大による食糧危機

エ 天然資源の枯渇

オ 火山の噴火や隕石の落下による気候変動

「人間の生活や行動によるもの」 …Ⅰ

「人間の生活や行動によらないもの」 …Ⅱ

問三 傍線部③とあるが、この問いの直接的な答えを、本文の内容を踏まえて簡潔に答えなさい。【思2】

問四 傍線部④とあるが、「生きていける環境」として第 6 段落で挙げられている項目を三つ抜き出さない。【思2（全解）】

問五 傍線部⑤とあるが、「大気」が人間に果たすの役割として本文に書かれていることを、十四字で一つ、二十五字で一つ抜き出さない。【思各2】

問六 傍線部⑥とあるが、人間が生存するための環境として「金星」にあって「月」にないものはなにか、簡潔に二つ答えなさい。【思各2】

問七 傍線部⑦とあるが、水星の説明には「重力」についての記載が省かれている。その理由として考えられることとして最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 他の星と比較して表面温度が高すぎることを重く伝えようとしたから。

イ まだ研究が浅く、水星に重力があるかどうか解明されていないから。

ウ 大気も水もないという説明だけで、人間が住めないことがわかるから。

エ 水星は金星よりも地球から遠く、人間が到達できる距離ではないから。

問八 傍線部⑧とあるが、本文に記載されている火星の説明として適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 火星は長年調査が行われていて、アメリカの有人探査によって水の存在が確認された。

イ 火星は地球と比べてほんの少し小さく、それが原因で平均表面温度もマイナス四三度となっている。

ウ 火星の大気を増やして地表温度を上げる作業が現在行われているが、数百年はかかる見込みである。

エ 現在の火星の地表に水が流れているわけではないが、過去に水があったことが判明している。

問九 本文を大きく三つのまとまりにわけるとき、二つ目のまとまりは何段落から何段落になるか。解答欄に合うように数字で答えなさい。【思3】

問十 本文では、人間が移住できるかどうかについて、「月」「金星」「水星」「火星」を例にあげて検討している。その中で、筆者が「火星」の説明を最後に配置しているのはなぜだと考えられるか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 火星は四つの星の中で、最も調査がしやすい星であることを強調したいから。

イ 火星は四つの星の中で、最も人間が住める可能性が高いことを強調したいから。

ウ 火星は四つの星の中で、最も地球の地表温度に近いことを強調したいから。

エ 火星は四つの星の中で、最も地球の重力と近いことを強調したいから。

次のページに問題が続きます。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(8)

① 短歌は、千三百年以上前から、日本で作られてきた詩です。五七五七七という定型に、人々はさまざまな思いをこめてきました。季節の変化、人を恋する気持ち、旅の心、人を悼む気持ち、日常の中のささやかなできごと……。

古くからあるだけでなく、今も多くの人が短歌を作っています。新聞や雑誌に、短歌の投稿欄があるのを知っていますか。普通の新聞に、普通の人たちが、短歌を作って投稿するのです。これは世界の中でも非常に珍しいことで、短歌は、日本が自慢できる文化の一つといっていいいでしょう。

短歌の大きな特徴は、短いこと。そしてリズムがあることです。

短いので、多くの言葉を用いることはできません。だから言葉を厳しく選び、磨かなくてはなりません。詩を書くとは、つまりそういうことなのです。

五音七音のリズムは、日本語を心地よく聞かせてくれる魔法のようなものです。このリズムに言葉をのせると、とても調子がよくなることを、短歌を声に出して読むことで実感してみてください。

短歌は、短い詩ですから、全てを説明することはできません。その分、読者が想像力をはたらかせて読むという楽しみがあります。

(ア) 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたかさ 俵 万智

この短歌を、私は恋の場面で詠みました。状況を全部は説明できないので、寒いねと声をかけ合う人がいることで心が温かくなる、そのことに絞って表現しました。

恋の歌と受け止めた人も多くいますが、ある人は「家族のやりとり」と捉え、ある人は「旅先での会話」を思い浮かべました。それぞれの読者の心に、それぞれの「I」が伝わるのが大切なのです。

(イ) 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生 栗木 京子

「君」と「我」が遊園地でデートしている場面です。観覧車に乗っている二人は、幸せなカッパルに見えるかもしれませんが、けれど、作者は感じているのです。相手にとってはたった「A」の想い出である今日という日が、自分には「B」の想い出となるだろうと。この温度差が、現在の二人の状況を示して、せつない恋の歌です。「君」と「我」、「A」と「B」という対比が効いていますね。「回れよ回れ」という命令形と繰り返しが、勢いとリズムを生んでいることなども鑑賞のポイントとなるでしょう。

短歌を作る初めの一步は、心の揺れです。小さなことでも、なにかしら「あつ」と思ったらメモしましょう。五七五七七の定型は、皆さんの言葉を「詩」にしてくれる、心強い味方でもあります。

問一 傍線部①とあるが、本文中に短歌の特徴として挙げられているものの中から、二つ抜き出さない。
【知各2】

問二 本文中の「I」に当てはまる単語を、短歌(ア)の中から抜き出して答えなさい。【思2】

問三 本文中の「A」「B」のそれぞれに当てはまる単語を、短歌(イ)の中から抜き出して答えなさい。【思2(全解)】

〔四〕次の①～④の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。(15) ①～④は短歌番号。

① みちのくの母のいのちを一日見ん一日みんとぞただにいそげる 斎藤茂吉

② 列車にて遠く見ている向日葵に少年のふる帽子のごとし 寺山修司

③ くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる 正岡子規

④ シャボンまみれの猫が逃げだす午下がり永遠なんてどこにも無いさ 穂村弘

問一 短歌①について、次の問いに答えなさい。

(1) 「一目見ん一目見ん」という表現から、作者のどのような心情が読み取れるか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。【思2】

ア 母のいのちが亡くなってしまつてどうしようもなく悲しい気持ち。

イ いのちの危機を脱して元氣になった母に会えるという明るい気持ち。

ウ 実家に帰つてどんな親孝行ができるか考える優しい気持ち。

エ 母のいのちが亡くなる前にどうしても会いたいと切迫した気持ち。

(2) この短歌の句切れを答えなさい。句切れがない場合は「句切れなし」と答えなさい。【知1】

問二 短歌②について、次の問いに答えなさい。

(1) 「帽子のごとし」は「帽子のようだ」と訳されるが、ここに使われている表現技法を漢字で答えなさい。【知2】

(2) この短歌の解説文になるように、次のA～Dに適する言葉を、短歌の中から抜き出さない。【思2全解】

作者が「A」に乗って遠くを見ていたら、「B」が揺れていた。それはまるで、「C」が「D」を自分に振ってくれているように見えた。

(3) この短歌の句切れを答えなさい。句切れがない場合は「句切れなし」と答えなさい。【知1】

問三 短歌③について、この短歌を直訳すると、「くれなゐの二尺ほど伸びているバラの新芽のまだ柔らかなトゲにしつとりと春雨が降り注いでいる」となるが、ここに詠まれている作者の心情として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。【思2】

ア まだ柔らかなバラの芽だが、自分はその花が咲く夏まで生きられるのかという不安。

イ バラの新芽が育つて花がついて、鮮やかな紅色に色づいたことへの喜び。

ウ 自分が手入れしていないのに、バラの花が鮮やかに咲いていることへのとまどい。

エ バラの新芽が日に日に成長していくのを見守っていけることへのうれしい気持ち。

問四 短歌④について、次の問いに答えなさい。

- (1) この短歌は初句が「シャボンまみれの」と、本来五音のものが七音になっている。このような状態をなんというか。【知2】

- (2) この短歌の句切れを答えなさい。句切れがない場合は「句切れなし」と答えなさい。【知1】

問五 短歌の句切れの効果の説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

【知2】

- ア 句切れがあることで、その場面の感動の中心を表現することができる。
イ 句切れがあることで、全く違う二つの思いを想像させることができる。
ウ 句切れがあることで、思いや情景の余韻を残すことができる。
エ 句切れがあることで、歌のリズムを整えることができる。

(五) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(24)

あなたは今、広島市の雑踏に立つて、半世紀以上も前の「あの日」を思い浮かべることができただろうか。原爆で辺り一面焼け野原になり、地獄のような光景が広がっていたことを想像できるだろうか。東京から転勤で広島に赴任した私には不可能だった。私は赴任直後から、次の年の八月六日の原爆の日放送する特別番組を作るために、「あの日」をたどる取材を始めた。被爆者の話や姿、被爆直後の写真、資料館に展示されている黒焦げの弁当箱やぼろぼろの衣服。そのような断片を自分の中で貼り合わせてみたものの、それが本当にあの日の広島なのか、とうてい自信はもてなかった。

そのような中で出会ったのが「伝言」だった。

【剥がれ落ちた壁の下から】

広島市の中心部にある袋町小学校。すっきりと立つ長方形の白い鉄筋コンクリートの校舎。その壁の下に「被爆の伝言」の一部が見つかったのは、一九九九年春のことだった。校舎の建て替え工事に先立つ壁の点検中、階段近くの壁が偶然剥がれ、その下から文字らしきものが現れたのだ。よく見ると「寮内」という字が読めた。

「字の痕跡」としかいえないようなものが「読めた」のには理由があった。原爆の直後にこの壁を撮った写真があることを多くの人が知っていたからだ。東京の写真家が撮影し、しばらくの間、広島平和記念資料館（原爆資料館）にも展示されていたその写真には、階段近くの壁一面に書かれた伝言が写されていた。だから文字らしきものが見つかったとき、関係者は「ひよつとしてあれではないか。」と思ったのだ。

写真に写っている文章の中身や、階段の手すりや壁の位置関係などを細かく見比べると、確かにそれは、ある人の連絡先として記した「東鑑寮内」の一部だった。

もし壁が剥がれなかったら。もし写真が撮られていなかったら。写真は撮られていてもみんなが知るものでなかったら。そう考えると、^①実にいくつもの偶然が重なって、奇跡的に伝言が発見されたことがわかる。

しかし、それだけではなかった。壁の下の文字が保存された事情もまた奇跡的だったのである。

実は、見つかった文字には、資料館に展示された写真の文字と一致しないことが一つだけあった。文字の色である。写真の文字は白い。当時の状況を鑑みれば、伝言が、黒く煤けた壁に白いチョークで書かれたものであることは明らかだ。ところが見つかった文字は黒かった。壁の下の文字は、どのように保存され、またどういった事情で白黒逆転して現れたのだろうか。

【白黒逆転のメカニズム】

一九四五年八月六日午前八時十五分、広島に原子爆弾が投下されて、市の中心部は一瞬にして破壊された。そしてすさまじい炎が町を覆った。市内の建物のほとんどを占める木造建築はことごとく焼きつくされた。伝言が見つかった広島市立袋町国民学校西校舎は、鉄筋コンクリート三階建て。爆心地から僅か四百六十メートルの地点にあつて、辛うじて焼け残った。付近で残った建物は数えるほどしかない。西校舎は、一九三六年に建てられた、最新の設備を誇る建物だった。地上三階地下一階、水洗トイレ完備のモダンな建物は、当時通っていた子供たちの自慢だったという。

鉄の窓枠は校庭に吹き飛ばされ、床や黒板や壁の木材は焼き払われたので、残ったのは「打ちっぱなし」のコンクリート部分だけだった。

しかし、雨露を防げる建物はなにしろ貴重だったから、校舎は原爆が落とされた直後から臨時の救護所となった。重傷を負った人たちが次々と運び込まれた。横たわる人の中に知り合いはいないか。探している人に関する情報はないか。行方知れずの人の消息を求めて、^②多くの人が訪れたと考えられる。

このとき、校舎の中の壁は、廊下や壁に貼られていた松の板材が焼けたときの煤で真っ黒になっていた。そして、床にはチョークが転がっていた。伝言が、凹凸の少ない、真っ黒なコンクリートの壁面を黒板代わ

りにして、白いチョークで書かれたこと。これが、伝言が保存されることになった第一の「条件」だったと専門家は指摘する。

更に「条件」が重なる。伝言の文字は、書かれたあと校舎が補修されるまでの間、そのまま放置された。書いた人の気持ちを考えれば、消してしまうには^③忍びなかつたのかもしれない。

ところで、黒板の端に書かれたままの「日直」という文字などが、年度の変わりめに消そうとすると、いくらすすつても消えなかつたという経験はないだろうか。チョークは、書いてすぐなら少し触っただけでも消えてしまうのに、しばらく置いておくと消せなくなる。これは、チョークの主成分(硫酸カルシウム)が、空気中の水分を吸って変質するからだ。

戦後、校舎の補修で壁が塗り直された時期は定かでない。早くても、校舎で授業を再開するために救護所が閉じられた一九四五年の十一月以降である。少なくとも放置期間は数か月以上。チョークが固まるのに十分な時間があつたことになる。チョークの伝言がある期間放置されたこと。これが、伝言が保存されることになった第二の「条件」である。

では、補修はどのように行われたか。古い壁の上に新しい壁を塗る場合、ふつうは新しい漆喰のりがよくなるよう、いったん壁を洗い流してから塗るそうだ。ただ、壁を洗い流すといつても、こびりついたチョークをそぎ落とすにはかなり手間がかかる。しかもついているチョークは白いから、煤を洗い流して白くなつた壁の中ではそれほど目立たない。少し盛り上がりついているだけで、塗り直しにもほとんど支障がない。こうした事情が重なって、チョークは壁に残つたのであろう。

ここで注目すべき点は、チョークが残つた部分の「チョークの下壁」は黒いということだ。五十数年間、チョークが壁の煤を、その部分だけ保護したことになる。文字が黒かつたのは、チョークで書かれた文字によつて守られていた煤が現れたからだ。ちなみにチョークそのものは、剥がれ落ちた壁にくつついて取り除かれた。これが、チョークで書かれた伝言が保存され、^④白黒逆転して現れたメカニズムだ。

【五十数年という時間】

「被爆の伝言」が発見された年の夏、新聞、テレビなどのマスコミは、この話題を大きく取り上げた。報道をきっかけに「あの日」以来会えずにいた、伝言を書いた教師と、伝言に書かれた教え子が五十数年ぶりに再会するというニュースが話を更に盛り上げた。建物そのものの永久保存を訴える声、他にもまだひとつそりと眠っている伝言があるのではないかとという声がわきあがつた。このような反響を受け、校舎の建て替え計画は変更され、校舎の一部保存と、伝言を見つけるための調査を行うことが決定された。戦後に塗られた壁を剥がして、文字を探すという前代未聞の調査である。

詳細な調査の結果、新たに文字が見つかったのは、最初の場所の近くにもう一か所。板壁を上から貼つたところで数か所。そのうち伝言がまとまって見つかったのは、一か所だけだった。

これを多いとみるか、少ないとみるか。伝言を校舎のあちこちで見たと記憶していた人にすれば、もっとあつたはずだという思いは強いだろう。しかし、もともと全て失われていたと考えられてきたことを思えば、成果は大きかつたとみてよいのではないか。

考えさせられたのは、発見された伝言が多いか少ないかということよりも、それらの伝言が五十数年という時間を超えて出てきたことの意味だった。

もし戦後すぐに見つかったとしたらどうであつたらう。あの日をなまなましく語れる被爆者がおおぜいて、被爆した建物や遺跡もまだ市内のあちこちに残っていたときなら、これほど大きな反響を呼ばなかつたのではないか。市内に残る被爆建物が僅かになり、被爆体験の風化が叫ばれる二十世紀の終わりだつたからこそ、これほど注目されたのだ。

〔無限に連鎖する「あの日」〕

原爆の直後、愛する人の行方がわからず、必死で探す人が書いた伝言の文字には、何が写されているのか。発見された伝言を取材者として初めて見たとき、^⑥私は正直途方にくれた。貴重な原爆の遺物であるという意味で迫力は感じた。だが、何が書いてあるのか文字を追うのさえ容易ではない。どこからどこまでが一つの伝言なのかわからない。名前はいくつか読めるが、書いた人の名前なのか、探している人の名前なのかわからない。その人がその後どうしたのかはもちろんわからない。

しかし、取材が進み、家族などの関係者が見つかって、彼らと一緒に書かれた文字の前に立ったとき、^⑦驚くべきことが起こった。彼らはいとも簡単にそのかすれた文字を読み、「ああそうだったのか。」とつぶやいた。そして涙を流した。

それを横で聞きながら私は、もう一度、その文字を眺めた。^⑧涙が出た。

書家でもなければ芸術家でもない人が書いた、しかもただ人を探すという目的のために書いた、文章ともいえない文字が、人の心をこんなに揺さぶるのか。半世紀の時を超えて、伝言の文字の中から「あの日」があふれ出た瞬間だった。

そして伝言に刻まれた「あの日」のことは、その話を聞いた多くの人々に伝わっていった。伝言のある場所に、直接には関係ない人々が集まってきた。人々は文字の前で口をつぐみ、立ちつくした。

「被爆の伝言」。それは現代の私たちに、あの日のことを静かに、力強く語ってくれる遺産であり、証人なのである。伝言の「あの日」が伝わっていく無限の連鎖は、今も続いている。

問一 傍線部①について、次の問いに答えなさい。

(1) 「いくつもの偶然」とあるが、これについて本文に書かれていることとして適切なものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。【思3 (全解)】

ア 校舎の壁の点検中、伝言の痕跡が残っている壁が偶然剝がれたこと。

イ 伝言が残っている壁に偶然言語学者が興味をもち、詳しく調べたこと。

ウ 伝言が書かれた校舎の壁を撮った写真が偶然残されていたこと。

エ 校舎の壁に実際、文字を書いた人が偶然名のりでたこと。

オ 伝言が書かれた壁を撮った写真があることを偶然多くの人が知っていたこと。

(2) このとき発見された「伝言」に「東鑑寮内」の一部があったが、この伝言からは何がわかるか。簡潔に答えなさい。【思3】

問二 傍線部②とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。【思3 (全解)】

ア 爆心地から離れていたため、この近所の人々が多く生き残ったから。

イ ほとんどの建物が焼け、雨風を防げる建物が周りにほとんどなかったから。

ウ 行方がわからない人の消息を求めて多くの人が立ち寄ったから。

エ もともと人々が大切に考えている建造物であり、愛着があったから。

問三 傍線部③「忍びなかった」とあるが、次のア～エの文のうち、「忍びない」が正しく使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 忍びない生活を日々していたので、雑踏に驚いた。

イ 皆で集まり、忍びない話し方をする。

ウ 休み時間に廊下を静かに歩くことは忍びない。

エ 大事な話の最中にトイレに行くのは忍びない。

問四 傍線部④とあるが、「白黒逆転して現れたメカニズム」の過程の中で、間違っているものを次のア～カの中からすべて選び、記号で答えなさい。【思3（全解）】

ア 原爆が落ちた直後、校舎の壁に松の板材が焼け、煤で真っ黒になった。

イ チョークで書かれた文字はすぐに洗い流された。

ウ きれいな壁に白いチョークで文字が書かれた。

エ チョークが壁に残ったまま漆喰を上塗りした。

オ 戦後、新しい漆喰を塗るために壁を念入りに洗い流した。

カ チョークと壁が一緒に剥がれ落ち、チョークの下の黒い煤が残った。

問五 傍線部⑤とあるが、それはなぜか。次のア～エから適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 伝言自体になぜ、世間が大騒ぎするのか、その意味が全く理解できなかったから。

イ 伝言を書いた人やその家族などの関係者が全くいないと知らされたから。

ウ 歴史的に重要な発見かどうかの判別がつかず、番組作りの方針に迷ったから。

エ 何が書かれているのか、どこまでが一つの伝言なのか、何もかもが疑問であったから。

問六 傍線部⑥について、本文の内容に合うものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 伝言の関係者は、まだ剥がされていない壁の部分にも伝言があることを見抜いた。

イ 伝言の関係者は、直接は書かれていない思いについても読み取り、語り始めた。

ウ 伝言の関係者は、かすれている文字についても、たやすく読み取っていた。

エ 伝言の関係者は、かすれて消えている部分の文字の復元を行うことができた。

問七 傍線部⑦とあるが、それはなぜか。次のア～エから最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。【思3】

ア 取材を始めた当初は、どのような番組を作ればよいか分からなかったが、伝言の関係者が伝言を見ることができて、これまでの取材の成果が報われたことに安心したから。

イ 壁の伝言に原爆の遺物としての価値しか感じられていなかったが、関係者が伝言と対面する場に立ち会ったことで、伝言を書いた人の必死の思いを想像することができたから。

ウ 戦争の経験者や遺物が減ってきている現代において、伝言が五十年以上残ることになったメカニズムに感動し、原爆の遺物としての価値を強く感じることはできたから。

エ 伝言に何が書いてあるかが分からず、理解できないことへの悔しさがあつたが、関係者が伝言と対面する場に立ち会ったことで、書かれている内容を読み取ることができたから。